

中国四国教育学会第 68 回大会報告

中国四国教育学会事務局
〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1
広島大学大学院教育学研究科教育学講座内
cssse@hiroshima-u.ac.jp

【第 68 回大会を終えて】

中国四国教育学会第 68 回大会は 11 月 5・6 日の 2 日間、鳴門教育大学で開催されました。開催校の鳴門教育大学の実行委員会の先生方に対して、厚くお礼を申し上げます。

大会開催の 2 週間ほど前、大会実行委員長の長島真人先生がご逝去になられました。今大会の準備をはじめ長年本学会に多大な貢献をしてくださった長島先生に厚く感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。大会開催直前のアクシデントはありましたが、木内陽一大会実行委員長代行、湯地宏樹副委員長をはじめとする実行委員会の先生方の絶大なご尽力により、大会は滞りなく開催されました。

本大会は例年と変わらない参加者と発表件数がありました。シンポジウムは、ドイツのドゥイスブルク-エッセン大学のコリアント教授による「東ドイツにおける教師の教育的日常と教授学理論の発展」と題する基調講演に引き続き、シンポジストの河合先生と吉田先生から充実した発表と討議がなされました。学問的なテーマでありましたが、どの発表も専門外の者にも理解可能な平易なもので、多くの参加者にとって研修の機会になったことと思います。成功に導いた企画者の木内陽一会員と共催の日本教育学会四国支部に厚くお礼を申し上げます。

さて、私が会長に就任して 2 年半が過ぎました。この間、『教育学研究紀要』CD-ROM 版の掲載費を大幅に軽減し、個人研究の場合、従来の 7,000 円から 5,000 円にしました。大学院生をはじめとする若手研究者に対する援助となれば幸いです。第 2 に、年 2 回理事会を開催することにしました。4 月の理事会では新しい役員と事務局幹事が一同に会し、新学会年度の予算案を審議することができ、有意義であったと思います。第 3 に、事業の 1 つ「研究推進活動」を活性化するように、新たに「課題研究」を開始しました。1 年目の昨年度は 2 件、本年度は 3 件の研究に対して研究助成を行いました。「課題研究部会」とラウンドテーブルでは、各グループから研究報告がなされました。地域の教育問題の解決への寄与、若手研究者の育成に当学会が少しでも寄与できれば幸いです。

最後に、会長の職をこの 1 期 3 年で卒業させていただくことになりました。この間、会員の皆様からの多大なご協力に厚く感謝いたします。本学会は教科教育や日本語教育の分野の会員も含み総合的な教育学の学会ですが、まだいくつかの課題があります。坂越正樹教授次期会長のリーダーシップにより、中国四国教育学会が益々発展することを期待しております。

(会長・山崎博敏)

○自由研究発表・公開シンポジウム・ラウンドテーブル

自由研究発表は、計 24 部会で 142 件の発表が行われ、各部会において大変活発な議論が交わされました。また、昨年度より始まった「課題研究」の成果報告を行う部会も設置され、研究の経過や結果の報告が行われました。

大会一日目の午後に設けられた今大会の公開シンポジウムは、「日常」と教育理論—教育学的「実験」国家としての旧東ドイツ」というテーマで、ドイツのドゥイスブルグ-エッセン大学のロートラウト・コリアント氏を基調提案者に迎えて行われました。総合司会の塩路晶子氏（鳴門教育大学）による登壇者の紹介に続いて、司会の木内陽一氏（同大学）・原田昌博氏（同大学）から趣旨説明がなされた後、コリアント氏による基調提案がなされました〔通訳：高谷亜由子氏（文部科学省）〕。氏は自身の教師としての経験を踏まえて旧東ドイツの学校や授業について具体的に説明しながら、クリンクベルグの教授学との関わりについて 2 つの視点から提案されました。その後、シンポジストである吉田成章氏（広島大学）と河合信晴氏（成蹊大学・非常勤）より、「戦後教育学研究における東ドイツ教育学の受容と展開」（吉田氏）、「東ドイツの日常生活と青年層」（河合氏）と題する問題提起がなされました。これらを受けて、フロアを交えた討議が活発に行なわれ、90 名の参加者にとって旧東ドイツの教育学を再考するいい機会となりました。

大会二日目の午後には、4 件のラウンドテーブルが開催されました。教員養成改革や道德教育の教科化といった教員養成を行っている大学にとっては、近年のトピックである課題が取り上げられ、テーマに関心を抱いた参加者が各教室に会し、活発な議論が行われました。

1 件目は、「教育学研究と実践志向の教員養成改革の関係性を問う」と題され、司会者の佐藤仁氏（福岡大学）から趣旨説明がなされた後、3 名から問題提起がなされました。発表者とテーマは次のとおりです。杉田浩崇氏（愛

媛大学)「教育哲学の立場から」、白石崇人氏(広島文教女子大学)「教育史の立場から」、樋口祐介氏(福岡教育大学)・熊井将太氏(山口大学)「教育方法学の立場から」。この企画は、2016-17年度「課題研究」採択の初年度の研究経過報告でもあります。

2件目は、「教科化後の道德教育を担う教員を大学はどう育てられるか」と題され、司会者の鈴木篤氏(大分大学)から趣旨説明がなされた後、渡邊満氏(広島文化学園大学)による基調提案、鈴木氏を含む4名から提案がなされました。発表者とテーマは次のとおりです。櫻井佳樹氏「これからの道德教育を担う教員を育てるために一中学校校長としての道德教育実践を踏まえて」、都田修兵氏(広島大学大学院・院生)「道德授業の難点を大学における講義でどのように考えるか」、山口裕毅氏(環太平洋大学)「考える道德」の指導方法をいかに構想するか」、鈴木篤氏「学生が「体感」して学ぶ道德授業方法の講義を目指して」。

3件目は、「教職課程科目「道德教育(指導法)」をいかに教授するか―「特別の教科道德」をケースメソッドで教える教師の養成可能性に焦点を当てて」と題され、司会者の竹内伸一氏(徳島文理大学)から趣旨説明がなされた後、竹内氏を含む2名から提案がなされました。発表者とテーマは次のとおりです。竹内伸一氏「初等教員志望の児童学科学生が履修する「道德教育」での教員教育実践とその考察」、林照子氏(甲南女子大学)「養護教諭志望の看護学科学生が履修する「道德教育の指導法」での教員教育実践とその考察」。

4件目は、「教師教育担当者の省察とこれからの教師教育―教職大学院担当者の経験から」と題され、企画者の丸橋静香氏(島根大学)から趣旨説明がなされた後、丸橋氏を含む4名から提案がなされました。発表者とテーマは次のとおりです。佐々木司氏(山口大学)「教職大学院一本化移行・定着期における大学教員の養成・採用・研修」、小林万里子氏(岡山大学)「授業実践力とカリキュラム構想力の相補性―道德教育担当者の立場から」、熊丸真太郎氏(島根大学)「学校経営」について学ぶ際の「経験」の意味」、丸橋静香氏「教師に求められる倫理」に関する実践上の課題」。

○理事会・総会報告

理事会は、大会前日の11月4日(金)18時30分から鳴門教育大学講義棟B102教室において開催され、役員12名と事務局幹事3名が出席し、総会に提出する事項についての審議等が行われました。

総会は、大会第一日目の11月5日(土)に、鳴門教育大学講義棟B101教室で開催されました。事務局からの各種報告の後、次期会長の坂越正樹会員により挨拶がなされました。続いて、2015年度決算報告・会計監査報告、2016年度予算案・中間決算報告、次年度大会校、副会長の改選についての審議がなされ、全て原案通りに承認されました。総会の進行は以下のとおりです。

中国四国教育学会・総会

| | |
|---------------------------------|---------------|
| 1. 開会の辞 | 事務局長： 古賀 一博 |
| 2. 会長挨拶 | 会長： 山崎 博敏 |
| 3. 大会校挨拶 | 副学長： 大石 雅章 |
| 4. 議長団選出 | 尾島 卓・湯地 宏樹 |
| 5. 報告事項 | |
| (1) 事業・会議報告 | 事務局幹事： 中島 一恵 |
| (2) 研究推進事業報告 | 事務局幹事： 久恒 拓也 |
| (3) 編集委員会報告 | 編集委員長： 鈴木 由美子 |
| (4) 『教育学研究ジャーナル』のJ-STAGE 掲載について | 事務局幹事： 中島 一恵 |
| (5) 会長選挙結果報告 | 会長： 山崎 博敏 |
| (6) 新会長挨拶 | |
| 6. 審議事項 | |
| (1) 2015年度決算報告・会計監査報告 | 事務局幹事： 小松田 智菜 |
| | 監査： 卜部 匡司 |
| (2) 2016年度予算案・中間決算報告 | 事務局幹事： 小松田 智菜 |
| (3) 次年度大会校および副会長・役員改選について | 会長： 山崎 博敏 |
| (4) その他 | |
| 7. 議長団解任 | 事務局長： 古賀 一博 |
| 8. 閉会の辞 | 事務局長： 古賀 一博 |

○次年度大会のお知らせ

次年度の第69回大会は、平成29年11月に広島女学院大学を会場として開催される予定です。詳細は追ってお知らせいたします。会員の皆様のご参加をお待ちしております。